

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4075300261		
法人名	有限会社 憲信社		
事業所名	グループホームみずき		
所在地	福岡県鞍手郡小竹町大字新多1418 (電話) 0949-62-8100		
自己評価作成日	令和5年9月5日	評価結果確定日	令和5年12月18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

近隣の小学校との手紙交換やビデオレターでのやり取り等コロナ禍でも地域の皆様と関わりあえる機会を大切にしています。また、看取り介護にも力を入れており、最後まで慣れ親しんだ環境で、自分らしい生活が送れるよう、入居者様、ご家族様、主治医、訪問看護ステーション、当苑スタッフ一同協力して取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和5年10月16日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

住宅街の小高い丘に位置した平屋木造建ての建物で、自然に囲まれ四季を体感することができる環境にある。自然光を取り入れた明るい共有スペースで、利用者は一人ひとりに合わせた支援を受けながら過ごしている。法人は介護付き有料老人ホームも運営しており、福祉全般に対応できるように運営している。コロナ禍で中止となっていた近隣の小学校との交流会を、今後、再開する予定である。児童が事業所に遊びに来る等、事業所が地域の一員として地域と交流している。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様とご家族様、地域の方々そして職員が支えあい町づくりに貢献する。という理念を掲げており、理念や職員の誓いを念頭におき、日々のサービスに努めています。	「明るい家庭的な環境と地域住民との交流」を基本理念に掲げている。職員が目につく場所に掲示し、共有している。コロナ禍で地域との交流が無くなっていったが、今年度は地域交流に向けた企画を計画し、話し合いを行っているところである。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し回覧板を毎月回していただいています。地域のお祭りで入居者様の作品を出展したり、近隣の小学校との交流はお手紙や動画でのやり取りをさせていただいております。	自治会に加入している。コロナ禍で地域との交流が無くなっていったが、今年の秋に開催予定の町民祭りに、事業所から祭りに展示される作品を出品する予定となっている。コロナ禍前のように、近隣の小学校との交流会を実施する予定である。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様には、入居時や来苑時にお話ししております。また、近隣小学校との交流の際にも、認知症の方の支援の方法や関わり方なども伝えていきます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域の民生委員や近隣住民代表の方、福祉課の方、入居者様、ご家族様にご参加いただいております。コロナ禍でも会議は施設内での参加者のみとなりましたが、委員の皆様にも資料配布にて報告をさせていただきご意見をいただいております。	今年度は書面で2ヶ月に1度開催されている。開催案内は構成員に直接手渡しで渡している。書面に内容に問い合わせ連絡先が記載され、要望や質問には電話でやり取りをしている。利用者の生活状況・身体状況・避難訓練報告等が議題となっている。質問があった際は、内容に応じて次回の議題にして報告している。	集合形式やオンラインでの開催等、意見交換の場を設定し、サービスの向上に向けての取組を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用状況等毎月お伝えし、ホームの状況等知っていただいております。そのほか課題点や不明点等あれば福祉課の方に相談させていただいております。また、施設スタッフが小竹町高齢者対策審議会の委員も務めており、協力関係ができています。	毎月入居者状況をFAXで報告している。事業所が発行する広報誌を運営推進会議で市町村職員に手渡し、事業所の様子について理解していただくよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止指針や事態が発生した場合のフローチャートを作成し、身体拘束廃止委員会や研修を通じて正しく理解できるように取り組んでいます。	身体拘束等適正化のための指針を作成し、職員は身体拘束をしないケアをに努めている。3ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を開催し、2ヶ月に1回研修を実施している。全職員に研修資料を配布し、身体拘束をしないケアについて周知している。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての外部研修（ネット研修）や施設内研修へ職員全員参加してもらい、虐待防止の文章なども休憩室に掲示し、啓発を行っている。また、普段の様子や入浴時にも虐待等発生していないか観察を行っています。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時にご家族様とご入居者様に権利擁護に関する制度の活用について説明し、パンフレットも準備しています。	入居契約時に利用者や家族に権利擁護のパンフレットを用いて説明を行っている。入居後も必要に応じて、その都度対応している。権利擁護についての研修を実施し、研修資料を保管している。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居後予想される事故やトラブル等については、事前に契約時に説明しています。また、契約前にご入居者様やご家族様に施設見学を行っていただき、不安や疑問についても訪ねるようにしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様からは日々の生活の中で、ご家族様に関しては訪問時や電話等の連絡時に苦情や要望などが気兼ねなく言える雰囲気づくりを心がけています。	利用者は日常的に意見や思いを職員に伝える機会がある。面会時に家族の意見を伺っている。希望や要望があった場合は、業務日誌にその旨を記載し、職員間で共有している。コロナ禍で家族会は開催していないが、今後は開催予定である。遠方の家族には、居室に宿泊していただけるよう環境を整備している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員が発言できる環境を作っており、会議でも積極的に意見や提案をしてもらい運営に反映している、	管理者は話しやすい環境を作り、職員の気づきやアイデアを運営に取り入れるようにしている。職員全体会議は年3回あり、職員から意見があれば必要に応じて個別に面談している。福祉用具展示会に行き、事業所で使用できる福祉用具を職員は検討している。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できるだけ職員の要望は聞くようにしており、状況に応じて話し合いの場も設けています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集にあたっては、男女問わず幅広い年齢層で募集をしており、働いている職員さん方は生き生きと勤務しています。向上心を持って働けるよう、相談、助言を行い資格取得についても積極的に支援しています。	男女問わず雇用している。未経験・未資格者についても就業について相談を受けて雇用することもある。定年はあるが再雇用もあり、希望に応じて就業することができる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会や会議を通して人権教育や啓発活動に取り組んでいます。	オンラインを活用して研修を受講している。今年度は、高齢者の人権についての研修を受講している。研修資料は全職員に配布して、知識を深めている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社半年以内に新人研修を行っています。また、施設内での研修も行い介護技術の指導を行っています。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に近隣施設へご挨拶に行っており、その際に情報交換をさせていただいています。また、電話等による面会制限の状況や施設内での対応等の情報交換も行っています。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から施設見学をして頂いたり、こちらから面談に伺い、ご本人様やご家族様の不安や要望等をお聞きし、徐々に施設に慣れ親しめるような関係づくりに努めています。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記取り組み同様、話しやすい環境を作り信頼関係が築けるようサポートしています。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様及びご家族様の精神面、身体状況や生活環境等を把握し、具体的にどんな支援が必要か、計画作成者や職員、主治医等関係者とご本人様、ご家族様も含め話し合い決定しています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様がご自分でできることはしていただき、出来ない事をスタッフがサポートする。そして入居者様の得意な事はスタッフに教えて頂くなど、共に支えあえる関係づくりをしています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が遠方の方以外は、来苑時にお支払いをしていただくようにしており、面会が途絶えないよう工夫しています。また、コロナ禍で面会禁止になった時も、ご家族様がお支払い等で来苑された時は、窓越し等でお会いしていただいたり、電話や手紙でのサポートも行っています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人の面会時には、お茶をお出しする以外は入室を控え、ゆっくり過ごしていただけるようにしています。	希望に応じて馴染みの場所や店に行けるよう支援している。いつも利用している美容室等に行き、馴染みの関係が継続できるよう支援を行っている。携帯電話の持ち込みや事業所の電話を使用することもできる。年賀状や暑中見舞い等、職員と一緒に作成している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間やレクリエーションにて、一緒に過ごす時間の調節役として、また、入居者様同士の会話の橋渡しなど関係がうまくいくように支援しています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご入居者様やご家族様とのかかわりを大切にしており、手紙のやり取りも行っています。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居者様とのコミュニケーションを密にとり、希望や意見を把握できるように努めています。意思表示が困難な場合は、日々のご様子や、アセスメント、ご家族様の情報から把握できるように努めています。	職員は日々の暮らしの中で、利用者に声をかけ、希望や意向を聞き取っている。意思疎通が困難な利用者には、日頃の様子や家族等から情報を得るようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様、担当されていたケアマネージャーより入居前に聞き取り調査を行い把握できるようにしています。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前までの生活リズムや過ごし方、出来ることやしたいことを上記同様に把握し、個人個人のペースで過ごしていただき、出来ない事をサポートできるように努めています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様からは日々の関わりの中で、思いや意見を積極的にお聞きし、担当者会議等で意見交換を行っています。	利用者一人ひとりに応じた支援ができるような計画作成を心がけている。担当者会議では、多職種が参加し、出された意見や情報を参加者全体で共有しながら、計画作成を行っている。6ヶ月に1回、または心身の変化や新たな生活ニーズがある際は、その都度計画を見直している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の訴えや行動、スタッフが掛けた言葉、行為、相手の反応、感じたことを細かい記録にすようにしており、介護計画に生かしています。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様からの宿泊希望時、寝具や食事を提供しています。また、外出の同行や入院時の面会の支援を行っています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や近隣の小学校、地域の方々などに来苑していただきスタッフと一緒にサポートしていただいています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様及びご家族様ご希望の際は、かかりつけ医へ受診していただいています。希望のない場合は、同意の上で協力医療機関から訪問診療に入っただき24時間の連絡体制が整っています。	入所時に、従来からのかかりつけ医や希望する医療機関を確認し、受診を支援している。家族と受診時の通院介助の方法や、情報の伝達方法について話し合っている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	アップルハート訪問看護ステーションによる24時間のオンコール対応、及び週1回の訪問にて健康管理を行っています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は面会に行くようにしており、なじみの顔を見せご入居者様に不安を与えないようにしています。（現在コロナの関係で面会禁止中が多い）そのほか、かかりつけ医や、入院先関係者、施設職員が常に情報交換を行っています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を定め、契約時に終末期における医療処置の対応、職員、ご家族、かかりつけ医、関係者との情報共有を密にし、今後の変化に備え準備ができるようにしています。	重度化した場合における看とりの指針を明文化している。主治医の指示のもと、必要に応じて家族等に説明を行っている。利用者や家族、職員、医師等で情報を共有し、支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応について研修を行っている。救命救急の講習会についてはコロナ禍の為今年は開催していない。緊急時は即座に対応できるように、緊急対応マニュアル、連絡網を作成しています。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時の避難経路や避難場所の見取図を掲示し、連絡網も作成しています。コロナ化でしばらく小規模での避難訓練でしたが、今年度より消防署にも参加していただいている避難訓練を再開しています。	災害マニュアルを作成している。年2回、消防署との合同訓練を実施し、水消火器を使っての消火演習も行っている。事業所内に缶詰めやお粥、飲料水、毛布等の非常用備品を準備している。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し方や入浴、排泄等の対応について勉強会を行っており、日々の支援に生かしています。また、記録などもの個人情報に関する秘密保持も徹底しております。	失禁等の際は、周りの利用者に気づかれないように「綺麗にしましょうね」等と声をかけ、誘導している。職員採用時のオリエンテーションにおいて、プライバシーや個人情報の扱いについての説明し、同意を得ている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様との日々のかかわりの中で、さりげなく好みを聞いたり、出来るだけ本人様の思いに沿った生活が出来るよう支援しています。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の体調やその日の気分等を十分に観察したうえで、声掛けをしながらご本人様の希望に沿った生活が出来るよう支援しています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度ご希望の方は、訪問美容サービスを受けていただいています。また、更衣の際は出来るだけご自身で好みの服を選んでいただいたり、要望を聞くなどし、用意をしています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の食事の好みを事前に把握し、食べられないものは別の食材で対応しています。食事中はテーブルを囲んで会話しながら楽しく食事をしていただけるよう、雰囲気作りに努めています。	入居時に利用者や家族に嗜好を確認している。ちらし寿司や菓子ケーキ等、食べたい物の希望を聞き、食事に取り入れている。利用者の嗜好を尊重し、苦手な物は他の物に変更する等、一人ひとりに合わせた食事支援を行っている。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材会社の指示のもと、一人一人の状態にあった食事を提供し、毎日の摂取量を記録し、その方に応じた水分量、栄養バランスを確保しています。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その方に合った口腔ケアを行っています。また、ご希望の方には週に1度訪問歯科に来ていただいております。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを記録し、見守りや声掛け誘導を行っています。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンやサインを把握し、見守りや誘導を行っている。失禁した際は、さりげない声かけをしながら、手早く支援している。おむつ等を扱う業者に相談しながら、利用者一人ひとりの状態に合う排泄製品を使用している。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便状況を把握し、ヨーグルトや食物繊維の多く入ったおやつを提供しています。また、腸の動きをよくするための腹部のマッサージ等も行っています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週に2回入浴日を設け規定以外でも希望時に入浴ができる様体制を整えています。入浴は入居者の状態にあった支援を行うようにしており、入浴を楽しんでい頂けるよう入浴剤等も用意しています。	週2回入浴を基本としているが、毎日お風呂の準備をし、希望があれば入浴ができる環境を整えている。入浴を望まない利用者には、声かけする職員や時間を変える等、工夫しながら一人ひとりに合わせた支援を行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣や体調をもとに安心してやあ住める環境作りに努めています。夜間眠れないときは暖かい飲み物をお出しして、会話をし安心して眠れるように支援しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月に二回薬剤師が来訪し、医師から処方された薬の管理と、ご入居者様や職員に説明をしていただいています。また、薬の説明書は個別にファイリングし職員が常に確認できるようにしています。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の得意な能力を発揮できるよう、園芸や過芸、政策、レクリエーション等を職員と一緒に取り組み、入居者様のアイデアを活かせるように取り組んでいます。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日には、ご希望に合わせ散歩に出かけています。また、地域の行事等にもご招待いただき参加しています。	天候や希望に応じて、週3回程度、事業所周辺を散歩している。コロナ禍で外出支援は行っていないが、今後は感染状況を見ながら、外出支援を実施する予定である。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できるご入居者様にはご自分で管理していただいています。また、管理が難しいご入居者様に対しても、買い物の日を設け希望されるものを購入できる機会を作っています。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望時には、いつでもご利用いただける様施設の電話を各ユニットホールに設置しています。また、手紙や切手の準備、ポストへの投函等もご支援させていただいております。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分であるホールには対面キッチンが設置されており、いつでも料理の過程がみられるようになってきました。また、ホールからテラスには車いすでも自由に入出りできるようになっています。また、ホール奥の畳の間では、ソファも設置しており入居者様の団欒の場となっています。	テレビの音量やカーテンで光の量を調整し、利用者が居心地良く過ごせるよう配慮している。ソファを設置し、利用者の憩いの場となっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール奥の畳の間や、日当たりの良い場所にソファ、イスを設置し、入居者の皆さんがそれぞれ寛がれたり、仲の良い入居者様同士で過ごせるような空間を設けています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際は、ご本人様の使い慣れたものをお持ちいただき、馴染みの物を置くことで入居時の不安を取り除けるようにしています。	基本的には、照明、ベッド、エアコン、カーテンは備え付けとなっている。使い慣れた布団や筆筒、棚等が持ち込まれている。また、家族や知人等との写真が飾られている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレを突き当りに設置し、ドアの色を変える等し、施設内の作りがご入居者様にわかりやすくなっています。また、一人一人の状況を把握し、配慮した支援を行っています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様とご家族様、地域の方々そして職員が支えあい町づくりに貢献する。という理念を掲げており、理念や職員の誓いを念頭におき、日々のサービスに努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し回覧板を毎月回していただいています。地域のお祭りで入居者様の作品を出展したり、近隣の小学校との交流はお手紙や動画でのやり取りをさせていただいております。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様には、入居時や来苑時にお話ししております。また、近隣小学校との交流の際にも、認知症の方の支援の方法や関わり方なども伝えていきます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域の民生委員や近隣住民代表の方、福祉課の方、入居者様、ご家族様にご参加いただいております。コロナ禍でも会議は施設内での参加者のみとなっていましたが、委員の皆様にも資料配布にて報告をさせていただきご意見をいただいております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用状況等毎月お伝えし、ホームの状況等知っていただいております。そのほか課題点や不明点等あれば福祉課の方に相談させていただいております。また、施設スタッフが小竹町高齢者対策審議会の委員も務めており、協力関係が出来ています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止指針や事態が発生した場合のフローチャートを作成し、身体拘束廃止委員会や研修を通じて正しく理解できるように取り組んでいます。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての外部研修（ネット研修）や施設内研修へ職員全員参加してもらい、虐待防止の文章なども休憩室に掲示し、啓発を行っている。また、普段の様子や入浴時にも虐待等発生していないか観察を行っています。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時にご家族様とご入居者様に権利擁護に関する制度の活用について説明し、パンフレットも準備しています。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居後予想される事故やトラブル等については、事前に契約時に説明しています。また、契約前にご入居者様やご家族様に施設見学を行っていただき、不安や疑問についても訪ねるようにしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様からは日々の生活の中で、ご家族様に関しては訪問時や電話等の連絡時に苦情や要望などが気兼ねなく言える雰囲気づくりを心がけています。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員が発言できる環境を作っており、会議でも積極的に意見や提案をしてもらい運営に反映している、		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できるだけ職員の要望は聞くようにしており、状況に応じて話し合いの場も設けています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集にあたっては、男女問わず幅広い年齢層で募集をしており、働いている職員さん方は生き生きと勤務しています。向上心を持って働けるよう、相談、助言を行い資格取得についても積極的に支援しています。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会や会議を通して人権教育や啓発活動に取り組んでいます。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社半年以内に新人研修を行っています。また、施設内での研修も行い介護技術の指導を行っています。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に近隣施設へご挨拶に行っており、その際に情報交換をさせていただいています。また、電話等による面会制限の状況や施設内での対応等の情報交換も行っています。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から施設見学をして頂いたり、こちらから面談に伺い、ご本人様やご家族様の不安や要望等をお聞きし、徐々に施設に慣れ親しめるような関係づくりに努めています。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記取り組み同様、話しやすい環境を作り信頼関係が築けるようサポートしています。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様及びご家族様の精神面、身体状況や生活環境等を把握し、具体的にどんな支援が必要か、計画作成者や職員、主治医等関係者とご本人様、ご家族様も含め話し合い決定しています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様がご自分でできることはしていただき、出来ない事をスタッフがサポートする。そして入居者様の得意な事はスタッフに教えて頂くなど、共に支えあえる関係づくりをしています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が遠方の方以外は、来苑時にお支払いをしていただくようにしており、面会が途絶えないよう工夫しています。また、コロナ禍で面会禁止になった時も、ご家族様がお支払い等で来苑された時は、窓越し等でお会いしていただいたり、電話や手紙でのサポートも行っています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人の面会時には、お茶をお出しする以外は入室を控え、ゆっくり過ごしていただけるようにしています。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間やレクリエーションにて、一緒に過ごす時間の調節役として、また、入居者様同士の会話の橋渡しなど関係がうまくいくように支援しています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご入居者様やご家族様とのかかわりを大切にしており、手紙のやり取りも行っています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居者様とのコミュニケーションを密にとり、希望や意見を把握できるように努めています。意思表示が困難な場合は、日々のご様子や、アセスメント、ご家族様の情報から把握できるように努めています。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様、担当されていたケアマネージャーより入居前に聞き取り調査を行い把握できるようにしています。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前までの生活リズムや過ごし方、出来ることやしたいことを上記同様に把握し、個人個人のペースで過ごしていただき、出来ない事をサポートできるように努めています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様からは日々の関わりの中で、思いや意見を積極的にお聞きし、担当者会議等で意見交換を行っています。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の訴えや行動、スタッフが掛けた言葉、行為、相手の反応、感じたことを細かい記録にすようにしており、介護計画に生かしています。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様からの宿泊希望時、寝具や食事を提供しています。また、外出の同行や入院時の面会の支援を行っています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や近隣の小学校、地域の方々などに来苑していただきスタッフと一緒にサポートしていただいています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様及びご家族様ご希望の際は、かかりつけ医へ受診していただいています。希望のない場合は、同意の上で協力医療機関から訪問診療に入っていただき24時間の連絡体制が整っています。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	アップルハート訪問看護ステーションによる24時間のオンコール対応、及び週1回の訪問にて健康管理を行っています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は面会に行くようにしており、なじみの顔を見せご入居者様に不安を与えないようにしています。（現在コロナの関係で面会禁止中が多い）そのほか、かかりつけ医や、入院先関係者、施設職員が常に情報交換を行っています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を定め、契約時に終末期における医療処置の対応、職員、ご家族、かかりつけ医、関係者との情報共有を密にし、今後の変化に備え準備ができるようにしています。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応について研修を行っている。救命救急の講習会についてはコロナ禍の為今年は開催していない。緊急時は即座に対応できるように、緊急対応マニュアル、連絡網を作成しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時の避難経路や避難場所の見取図を掲示し、連絡網も作成しています。コロナ化でしばらく小規模での避難訓練でしたが、今年度より消防署にも参加していただいた避難訓練を再開しています。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し方や入浴、排泄等の対応について勉強会を行っており、日々の支援に生かしています。また、記録などもの個人情報に関する秘密保持も徹底しております。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様との日々のかかわりの中で、さりげなく好みを聞いたり、出来るだけ本人様の思いに沿った生活が出来るよう支援しています。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の体調やその日の気分等を十分に観察したうえで、声掛けをしながらご本人様の希望に沿った生活が出来るよう支援しています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度ご希望の方は、訪問美容サービスを受けていただいています。また、更衣の際は出来るだけご自身で好みの服を選んでいただいたり、要望を聞くなどし、用意をしています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の食事の好みを事前に把握し、食べられないものは別の食材で対応しています。食事中はテーブルを囲んで会話しながら楽しく食事をしていただけるよう、雰囲気作りに努めています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材会社の指示のもと、一人一人の状態にあった食事を提供し、毎日の摂取量を記録し、その方に応じた水分量、栄養バランスを確保しています。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その方に合った口腔ケアを行っています。また、ご希望の方には週に1度訪問歯科に来ていただいています。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを記録し、見守りや声掛け誘導を行っています。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便状況を把握し、ヨーグルトや食物繊維の多く入ったおやつを提供しています。また、腸の動きをよくするための腹部のマッサージ等も行っています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週に2回入浴日を設け規定以外でも希望時に入浴ができる様体制を整えています。入浴は入居者の状態にあった支援を行うようにしており、入浴を楽しんでいただけるよう入浴剤等も用意しています。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣や体調をもとに安心してやあ住める環境作りに努めています。夜間眠れないときは暖かい飲み物をお出しして、会話をし安心して眠れるように支援しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月に二回薬剤師が来訪し、医師から処方された薬の管理と、ご入居者様や職員に説明をしていただいています。また、薬の説明書は個別にファイリングし職員が常に確認できるようにしています。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の得意な能力を発揮できるよう、園芸や過芸、政策、レクリエーション等を職員と一緒に取り組み、入居者様のアイデアを活かせるように取り組んでいます。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日には、ご希望に合わせて散歩に出かけています。また、地域の行事等にもご招待いただき参加しています。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できるご入居者様にはご自分で管理していただいています。また、管理が難しいご入居者様に対しても、買い物の日を設け希望されるものを購入できる機会を作っています。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望時には、いつでもご利用いただける様施設の電話を各ユニットホールに設置しています。また、手紙や切手の準備、ポストへの投函等もご支援させていただいております。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分であるホールには対面キッチンが設置されており、いつでも料理の過程がみられるようになっています。また、ホールからテラスには車いすでも自由に出入りできるようになっています。また、ホール奥の畳の間では、ソファも設置しており入居者様の団欒の場となっています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール奥の畳の間や、日当たりの良い場所にソファ、イスを設置し、入居者の皆さんがそれぞれ寛がれたり、仲の良い入居者様同士で過ごせるような空間を設けています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際は、ご本人様の使い慣れたものをお持ちいただき、馴染みの物を置くことで入居時の不安を取り除けるようにしています。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレを突き当りに設置し、ドアの色を変える等し、施設内の作りがご入居者様にわかりやすくなっています。また、一人一人の状況を把握し、配慮した支援を行っています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2／3くらいの		
				③利用者の1／3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		



項目番号		項 目	取 り 組 みの 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない